（一社）日本エコツーリズム協会（JES）新任理事からのメッセージ

今年６月の一社）日本エコツーリズム協会総会で新たに４名の理事（兼運営役員）が就任しました。
今般の理事就任を機に新任理事から最近の取組、エコツーリズムとの連携や期待などについてのメッセージを紹介します。

エコツーリズムの目指す活力のある持続的な地域の実現

池田暢也
Nobuya Ikeda
全日本空輸株式会社
営業センター地域創生部長

皆様とともに、エコツーリズムのさらなる発展に向けた課題に取り組む機会をいただき大変光栄に思います。

ANAグループは、地球温暖化対策や生物多様性の保全等の地球環境への取組みを重要な経営課題と認識し、グループのあらゆる企業活動を通じて環境リーディング・エアライングループを目指しています。

エコツーリズムの目指す活力のある持続的な地域の実現は、正に昨年度より、ANAグループ内に地域創生を担う部門として設立されたANAあきんど（株）の活動とも親和性の高い取組みであると感じております。これまでの交流人口拡大に加えて、関係人口拡大にも注力し、全国各地の地域の皆様と共に、様々な地域課題の解決に取り組んでいます。

一例として、全国の魅力ある温泉地を拠点として、ウォーキングし地域コミュニティに触れ合いながら、その土地で育つ山の幸や海の幸・食文化を味わい、手付かずの自然や受け継がれる文化・歴史を学び、地域資源を体感するツアー等を展開し、地域を「訪れ・知る」機会を提供しています。実際に現地を訪れその地域固有の魅力や価値、あるべき姿をお客様に体感していただくことで、理解を深め、地域とのコミュニケーションから生まれる関係人口の拡大にも寄与できるものと考えております。

ANAグループの様々な活動を通じて、地域資源の保全・魅力発信に努めてまいりますので、今後ともどうぞ宜しくお願い致します。

秋田県大館市のイベントでガイドの話を聞く参加者の皆様

『自然』と『文化』を通してその土地の魅力を感じるエコツーリズムを発信

大村康治
Yasuji Omura
日本航空株式会社
旅客販売推進部部長

JALグループは、事業活動を通じて社会の課題解決に取り組み、持続可能な社会の実現に貢献することを目指しています。地球環境を守り、社会インフラの使命を果たし、より豊かな社会を実現するために、環境負荷の軽減と資源の有効利用に取り組む一方で、全国に張り巡らせた路線ネットワークを活かして旅行を通じた地域社会への貢献に結びつく価値を提供していきます。

JALグループのエコツーリズムは、2019年に奄美大島より「自然・文化に彩られた魅力ある土地を旅する」としてスタートしました。気軽に自然にふれられる旅として、ひとりでも多くのお客さまに興味を持っていただきたいという想いが込められています。一般的に「エコ」と聞くと、「自然」をイメージする方が多いと思いますが、我々がご提案するエコツーリズムは、「自然」と「文化」を通してその土地の魅力を感じていただくものです。旅自体を楽しむのはもちろん、旅を通して現地の雄大な自然や継承されてきた伝統文化を肌で感じ、少しでも自然・文化の重要性・希少性について考える機会となれば嬉しく思います。2021年には第17回エコツーリズム大賞（特別賞）を受賞させていただきました。これを励みに、今後とも日本各地の魅力を発信する旅行や、参加されたお客様が自然や文化へ何らかの形で寄与できる旅行をJESと連携して推進していきます。お客さまに「感じて」「考える」機会を提供してまいりますので、これからのJALグループに是非ご期待ください。

雄阿寒岳を望む阿寒ヒョウタン沼

JR東日本ぶなの学校

地方創生とエコツーリズムの親和性を実感

立谷光太郎
Kotaro Tachiya
株式会社博報堂
顧問

JESのNPO時代に私の前任者が理事として活動に関わり、自分が引き継いだ後もどのような連携ができるかを模索していた時、JESの田川会長からツーリズムは学びだという話を聞きました。エコツーリズムを通じて地域の自然、文化、歴史などを学び、地域に人が行くことで保全され進化していく。その時、地方創生を通じた連携ができないかと思いました。その後、博報堂グループのベンチャー企業がふるさと納税の返礼品として地域の体験ツアーを組み込む事業や、九州博報堂の「学び」をコンセプトにした奄美大島のプロモーション事業でJESと連携した際、地方創生とエコツーリズムの親和性を実感しました。これからもエコツーリズムとつなげ、自然や文化を守り活用しながら地方創生につながる地域の活動を応援していきたいと思います。

一方で、エコツーリズムという言葉は旅行業界では浸透していますが、地方創生の現場にいる自治体関係者等の間ではあまり知られていないように感じます。北海道、沖縄、奄美群島、白神山地など自然が豊かな一部の地域ではエコツーリズムが浸透していますが、日本各地には里地里山のような身近な自然が多々あります。これらの地域の自治体や住民がエコツーリズムを知り、自らの手で自然を活用し資源をつくる人が増えると、エコツーリズムの活動が広がっていくのではないでしょうか。観光地にならなくても自分たちが守り育てるエコツーリズムがあってもよいと思います。

これからの時代に合わせエコツーリズムを推進し、未来に向けたJESの活動を期待しています。

地域社会の持続的な発展への貢献とエコツーリズムの推進

古澤英樹
Hideki Furusawa
東日本旅客鉄道株式会社
マーケティング本部
観光戦略室長

JR東日本グループでは、グループ経営ビジョン「変革2027」において、ESGはグループ経営の根幹であり、「ESG経営」の実践により事業を通じて社会的な課題を解決することで、地域社会の持続的な発展に貢献するとともに、持続可能な開発目標（SDGs）の達成に向けた取組を推進していくことを謳っています。地方創生、観光開発をその柱の一つとして、地域の皆様とともに「地域間」「地域内」の観光交流の拡大に取り組んでいますが、このことはJESの「資源の保護＋観光業の成立＋地域振興の融合をめざす観光の考え方」とも方向性が一致していると考えています。

当社の取組を振り返ると、世界自然遺産「白神山地」の魅力をアピールする「白神山地出前講座」や「ブナの学校」の開講、「大人の休日倶楽部」とタイアップした旅行商品の設定などを実施してきました。また、2022年7月から9月に実施した「北東北三県大型観光キャンペーン」では、ロゴマークにおいて北東北の豊かな自然とエコツーリズムを意識した取組を表現。具体的には、「リゾートしらかみアウトドアトレイン」や「みちのく潮騒トレイル」など、自然や絶景をテーマとした施策を推進してきました。

このように、お客さまに実際に現地を訪問していただけるよう、自然・歴史・文化など地域固有の資源を生かした様々なツアーの企画や東日本エリアの魅力発信を行ってきました。

近年、お客さまの価値観は大きく変容しており、今後の観光には「移動する目的を創り出していくこと」、更には繰り返し来てもらうことでその土地との関係性を構築し「関係人口を創出していくこと」が求められています。

当社グループでは、新しい生活様式に対応した「ワーケーション」も推進するなど、今後も当社グループのアセットを活用しながら、これまで培ってきた地域との関係性をより深め、新たな価値を創造していきたいと考えています。

ドキドキ、キタキタ
北東北
NORTH TOHOKU

北東北三県大型観光キャンペーンロゴ